

# 2021 年度環境アレルギー分科会活動報告書

平 久美子 山野 裕美 野崎 淳夫 吉野 博

## 1. 概要

2021年4月から2022年3月までに、当分科会の会合は計7回開催された。昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の流行拡大のため、対面形式を避け東京工業大学の鍵教授の手配によるZOOMを用いたWEB形式で行った。毎回、分科会会員による各専門分野の情報提供と活発な質疑応答がなされ、その都度論文形式の抄録を作成した。発足以来蓄積したこれらの抄録を、2021年11月、分科会活動報告書「環境アレルギー問題の現状と課題」として学会誌「臨床環境医学」のホームページ上に公開した。その後、一般への情報提供を目指して議論を重ね、日本における環境アレルギー対策について基礎知識を得たい人たちのための教科書が必要とされているとの結論に達し、出版に向けて企画書を作成し、学会理事長に提出した。このほかウェブ開催された第29回日本臨床環境医学会学事集会において、国立生育医療センターの松本健治先生に「アレルギー疾患とマイクロバイオーム」について特別講演をいただき、環境アレルギーに関する多岐にわたる貴重な情報をご教示いただいた。

## 2. 分科会メンバー（2022年3月末現在）

医学分野：谷口正実（湘南鎌倉総合病院臨床研究センター）、渡井健太郎（国立病院機構相模原病院臨床研究センター呼吸器アレルギー科）、角田和彦（かくたこども&アレルギークリニック）、阪口雅弘（東京環境アレルギー研究所）、白井秀治（環境アレルゲン info and care 株式会社）、高岡正敏（（株）ペスト マネジメント ラボ）、東賢一（近畿大学）、高野裕久（京都大学）、釣木澤尚実・押方智也子（平塚市民病院アレルギー内科）、高鳥浩介（NPO カビ相談センター）、平久美子（東京女子医科大学東医療センター麻酔科、代表）

物理・化学分野：関根嘉香（東海大）、高橋久美子・成田泰章（暮らしの科学研究所）、篠原直秀（産業技術総合研究所）

建築分野：吉野博（東北大学）、池田耕一（日本大学）、野崎淳夫（東北文化学園大学大学院、副代表）、一條祐介・二科妃里（東北文化学園大学大学院）、鍵直樹（東京工業大学）、柳宇（工学院大学）、長谷川兼一（秋田県立大学）、三田村輝章（前橋工科大学）、金勲（国立保健医療科学院）、林基哉（北海道大学）、山野裕美（東京環境アレルギー研究所、幹事）

## 3. 今年度の研究テーマと検討内容

前年に引き続き、環境アレルゲンと環境アレルギーの増悪因子について情報収集と検討を行った。各内容と講師名（敬称略）は以下の通り。

2021.4.6. アレルギー・アトピー性皮膚炎と有害化学物質（角田和彦）；住宅における健康に関するQOLアンケート調査（阪口雅弘）

2021.5.28. ペットアレルギーについて（阪口雅弘）

2021.7.9. 居住環境中のダニアレルゲン(池田耕一)；ダニアレルゲンの対策について(白井秀治)；寝具のアレルゲン対策(角田和彦)

2021.9.3. 花粉アレルゲン対策について(白井秀治)；室内環境研究者のためのアレルギー疾患(平久美子)

2021.11.5. 環境アレルギー分科会活動報告書を活用した出版計画について(平久美子)

2021.1.14. 出版計画執筆要項について(吉野博)；アレルギー疾患と室内環境(平久美子)

2021.2.25. 原稿内容の紹介：化学物質(関根嘉香)；ダニの形態と分類(高岡正敏)；カビの特徴と種類(高鳥浩介)；温湿度制御(ダンプネス)結露防止(長谷川兼一)；アレルギー対策を施した住まいの例(三田村輝章)

## 5. 会計報告

<収入の部>

日本臨床環境医学会様より 50,000 円

<支出の部>

当初、第29回日本臨床環境医学会学術集会において分科会活動報告書「環境アレルギー問題の現状と課題」を印刷、参加者に配布する予定だったが、ウェブ開催となったため中止した。次回の学術集会が開催できればその時に配布したいので、残金を繰り越すことをご承認願いたい。

## 4. 次年度以降の取り組み

- a. 引き続き各委員どうしの情報交換を行い、アレルギー疾患を予防改善するための室内環境の改善案について、各対策のリストと推奨度を検討する。
- b. 2022年6月25日に開催予定の第30回日本臨床環境医学会学術集会において、分科会活動報告書「環境アレルギー問題の現状と課題」を印刷、参加者に配布する。
- c. 出版企画

仮題：Q&A でわかる 脱アレルギー疾患

概要：公衆衛生や建築関係の学生および実務者のために、室内環境アレルギーの概念と各アレルゲンの特徴と対策が最新の知見をもとに簡潔に記載された本格的な教科書

出版のための枠組み：建築および室内環境関連の専門書の出版に実績がある会社が、上記の企画について当分科会に執筆依頼し、出版する。原稿のとりまとめは当分科会で行い、原稿料は各執筆者に本1冊、監修は吉野博と平久美子を予定している。著作権は学会に所属する。目次案と活動報告書との対応、執筆分担は以下の通りである。

	目次	活動報告書の目次	執筆者
1	アレルギー疾患と室内環境		
1.1	アレルギーと疾患の定義		平久美子、渡井健太郎
1.2	アレルギー疾患の発症機序		平久美子、角田和彦

		2.4 衛生仮説とエンドトキシン (を含む)	金勲
1.3	アレルギー疾患の増悪因子	2.2 喘息と環境因子	東 賢一
1.4	室内環境アレルゲン		平久美子、角田和彦
1.5	室内環境アレルギーの治療法	2.1 環境アレルギーによる健康被害と治療	渡井健太郎、谷口正実
1.6	室内環境アレルギーの予防		平久美子
1.7	●免疫の仕組みとアレルギー		平久美子
1.8	●アレルギー疾患の疫学		平久美子
1.9	●アレルギーと化学物質過敏症		渡井健太郎
1.10	化学物質の健康影響	2.3 化学物質と健康影響	関根嘉香
<b>2</b>	<b>室内環境アレルゲン</b>		
2.1	カビ	3.1 カビの種類と特性(1)カビの種類	高島浩介
2.2		3.1 カビの種類と特性(2)カビと住まい+生物学的特性	柳 宇
2.3		3.8 各種の住宅におけるダニ・カビ等の調査(1)仮設住宅における真菌と温熱環境	篠原直秀
2.4		3.8 各種の住宅におけるダニ・カビ等の調査(3)帰宅困難者地域の住宅におけるハウスダスト中のダニ・カビ・エンドトキシン	篠原直秀
2.5	ダニ	生物学的特性	高岡正敏
2.6		ダニの種類と特性	阪口雅弘、白井秀治
2.7		3.4 ダニアレルゲンの実態と環境整備による防除	阪口雅弘、白井秀治
2.8		3.6 東日本大震災被災者のダニアレルギーの実態と対策(1)小児アレルギー疾患に対する環境整備介入効果の検証	釣木澤尚実他
2.9	花粉	3.6 東日本大震災被災者のダニアレルギーの実態と対策(2)住環境変化と高齢者のダニアレルゲン感作	釣木澤尚実他
2.1	ペットアレルゲン	3.9 スギ花粉の実態と対処法	山野裕美、白井秀治
2.11	感作性物質	3.5 ネコ飼育住居の壁面付着ネコアレルゲン調査	白井秀治、阪口雅弘
	(アジュバント物質)	アジュバンドではなく、アレルギーの起因物質としての化学物質に対する視点としては書く	東賢一
2.12	イソシアネート		角田和彦
<b>3</b>	<b>対策技術の現在と未来</b>		
3.1	室内環境アレルゲン対策の基本	湿度環境制御も含む	池田耕一
3.2	室内環境アレルゲンの動態	4.6 室内環境におけるハウスダストの再飛散に関する挙動	鍵 直樹
3.3	住宅の換気	4.1 住宅の空気質維持のための換気対策、基本的な考え方、外気からの汚染対策、湿気の除去等	林 基哉
3.4	空気清浄機	4.2 アレルギー対策のための全館空調住宅の評価	三田村輝章
3.5		4.3 空気清浄機の除去性能(1)超微小粒子(UFPs)	野崎淳夫他
3.6		4.3 空気清浄機の除去性能(2)真菌	野崎淳夫他
3.7	温湿度制御(ダンプネス)、結露防止	3.2 住宅のダンプネスと浮遊真菌濃度ならびに温湿度	長谷川兼一、三田村輝章
3.8	エアコンのメンテナンス		柳宇、高島浩介
3.9	暖房器具	4.5 石油ストーブからのVOC発生	野崎淳夫他
3.1	清掃、洗濯	布団の丸洗い他	白井秀治
3.11	マスク		山野裕美
3.12	防ダニシート	4.4 市販のマスクろ材の花粉捕集効果	野崎淳夫他
3.13	スノコ	3.7 小児アレルギー患者宅における環境整備によるダニ回避と症状改善効果	高岡正敏他
<b>4</b>	<b>まとめ</b>	5. 要約と総括	吉野博
5.1	ダンプネスと室内環境	3.3 東日本の住宅60軒におけるMVOC類濃度とダンプネス指標	篠原直秀

以下余白